

# 国際武道大学研究紀要

第 34 号 (2018)

## 目 次

### 〈原著論文〉

- 浅沼 徹・佐藤 記道・山田 良徳・中西 純  
教員養成課程学生におけるストレス対処力 SOC と  
教員資質能力・ソーシャルサポートとの関連  
—体育系大学における検討— ..... 1
- 皆川 孝昭  
スポーツにおけるプレイの体系化に関する研究：  
バスケットボール競技を例とする体系的把握に向けた視点の究明 ..... 11

### 〈研究報告〉

- 百武 憲一・井上 哲朗・大西 基也・岩井 美樹  
大学野球選手の体力特性Ⅱ  
—5段階評価表の作成— ..... 23
- 大西 基也・百武 憲一・岩井 美樹  
高等学校硬式野球部の経営に関する研究  
—甲子園ベスト16経験のある硬式野球部を対象として— ..... 31
- 黒田 敦子・多田 寿康・佐々木 克実  
国際武道大学の英語、フランス語、スペイン語授業において学習させるべき  
会話表現について ..... 39

### 〈資 料〉

- 奥山 秀雄・浅沼 徹・藤本 太郎  
Sitting-Shooter Basketball ゲームの確立と普及・展望に関する研究  
—体育系男子大学生を対象とした事例— ..... 51
- 廣瀬 恒平・西園 聡史・酒井 誠  
近代フットボールから派生したスポーツ  
—各近代フットボールの主要派生競技— ..... 63

### 〈講 座〉

- 大矢 稔・金木 悟  
剣道における諸手左上段に対する中段の技法に関する考察 ..... 73

## 教員養成課程学生におけるストレス対処力 SOC と 教員資質能力・ソーシャルサポートとの関連 — 体育系大学における検討 —

浅沼 徹, 佐藤記道, 山田良徳, 中西 純

### 要 旨

本研究の目的は、体育系大学の教員養成課程学生を対象として、ストレス対処力（首尾一貫感覚：SOC）と教員資質能力、ソーシャルサポートとの関連を検討することであった。2018年7月に、国際武道大学の教職課程学生を対象に質問紙調査を実施した。得られた367部の有効回答（有効回答率78.9%）について、SOCと教員資質能力、ソーシャルサポートとの関連を検討するために階層的重回帰分析を実施した。

その結果、以下のことが明らかになった。

- (1) SOCレベルを規定する教員資質能力は、仕事に対する自信、教員としての責任感、情報管理能力であった。
- (2) ソーシャルサポートは情緒的・手段的といった内容に関わらず、SOCと教員資質能力との関連の強さを緩衝することが示唆された。
- (3) 教員養成課程学生のSOCレベルを高める上では、評価的サポートを多く得ること、仕事に対する自信を高めること、教員としての責任感を高めることが重要であることが示された。

キーワード：首尾一貫感覚、教員資質能力、ソーシャルサポート、教員養成課程、体育大生、階層的重回帰分析

## スポーツにおけるプレイの体系化に関する研究： バスケットボール競技を例とする体系的把握に向けた視点の究明

皆川孝昭

### 要 旨

競技スポーツにおける「プレイ」は、ゲームの重要な一部であり、その構成要素と見做される「技術」と「戦術」は、指導に際して体系的に把握されているべきものである。しかしながら、先行研究に見られる競技スポーツの体系化を試みた報告は、用語の使用に関する混乱や統一的な見解の欠如、それらを区分する際の基準の不明確さ等、多くの問題を有していると考えられる。

そこで本研究では、バスケットボール競技を例にとり、「プレイ」の体系化をする上での視点の枠組みについて共通認識を得ることを目的とした。そしてそれは、先行研究における問題性を払拭するために、①「プレイ」に関わる用語を規定し、②体系化を試みる上での構成要素の区分に一定の基準を与え、③「プレイ」を体系化する際の視点を提示する、という手順によって展開された。

本研究で得られた「プレイ」を体系的に把握するための視点の枠組みは、次のように纏められるであろう。すなわち、バスケットボール競技における「プレイ」を体系的に捉えるための視点の枠組みは、公共性が検証され運動形態が明確に把握された「技術」を対象に、「その時々状況における課題」と「技術が解決すべき課題」を検討することを通して、「ボールの所有」と「空間」という要素を考慮にいれて、技術間の関係性を「シュート（得点）」に向けた「連鎖の順次性」に即して把握する、ことである。

キーワード：バスケットボール，体系化，視点，技術，戦術，運動課題

## 大学野球選手の体力特性 II

### — 5 段階評価表の作成 —

百武憲一, 井上哲朗, 大西基也, 岩井美樹

#### 要 旨

本研究では, 大学野球選手の体力測定における 5 段階評価尺度を作成し, トレーニングの目標となる有用な評価尺度を作成することを目的とした。また, 指導者の評価と体力測定値の相関関係についての検討を行った。その結果, 以下のことが明らかになった。

投手の 5 段階評価において有意差が見られ, 投手 A 群の方が高い結果であった測定項目は, 背筋力, ボール速度, 全項目の合計, 形態項目を除く体力項目の合計であった。

野手の 5 段階評価において有意差が見られ, 野手 A 群の方が高い結果であった測定項目は, 身長, 除脂肪体重, 握力, 背筋力, 垂直跳び, 立ち幅跳び, 30m 走, バットスイング速度, ボール速度, 全項目の合計, 形態項目を除く体力項目の合計であった。

投手の指導者評価と各項目の相関係数において有意な相関関係が見られた測定項目は, 垂直跳び, 立ち幅跳び, ボール速度, 全項目の合計, 形態項目を除く体力項目の合計であった。

野手の指導者評価と各項目の相関係数において有意な相関関係が見られた測定項目は, 身長, 体重, 除脂肪体重, 握力, 背筋力, 垂直跳び, 立ち幅跳び, 30m 走, バットスイング速度, ボール速度, 全項目の合計, 形態項目を除く体力項目の合計であった。

今後の課題は, 実際にトレーニングを行った上で再度体力測定を実施し, トレーニング前後の測定値を比較して, トレーニングの有効性や選手のレベルアップの度合いを検討していく必要があると考える。

キーワード : 野球, 体力測定, 大学生, 5 段階評価, 指導者評価

## 高等学校硬式野球部の経営に関する研究

### — 甲子園ベスト 16 経験のある硬式野球部を対象として —

大西基也, 百武憲一, 岩井美樹

#### 要 旨

本研究の目的は、春の甲子園および夏の甲子園のいずれかでベスト 16 以上の成績を収めている高等学校硬式野球部の経営に関する特徴を明らかにすることであった。経営資源に関するアンケート調査で得られた回答を集計し分析した結果、以下の特徴が推察された。

現任校で甲子園に出場した経験や甲子園出場を逃した経験などの勝利と敗北のどちらも経験することで、現任校の選手やチーム全体をより良い状態へ持っていく指導ができることに繋がっている。

充実した内容の練習をして、なおかつ寮・合宿所があることで県外や自宅が遠方で通えない有望な選手も入学でき、24 時間管理体制で選手のコンディションを整えることができる。

ボールやバット、ベースやピッチャープレートなどの道具には消耗品が多く、定期的に購入する必要があるため、年間予算の大半が道具費に充てられている。

文武両道という考え方以前に、人間教育の一環として野球部の活動や選手の指導を行い、人として成長できるようにしている。

スポーツ特待生制度やスポーツ推薦生制度があり、有望な選手を獲得できる体制が整っている。

以上の本研究で推察された特徴は、高い競技成績を挙げることを目的とした高等学校硬式野球部の経営を支援する情報となりうる。

キーワード：野球, 高等学校硬式野球部, 甲子園, 経営資源, 経営

## 国際武道大学の英語, フランス語, スペイン語授業において 学習させるべき会話表現について

黒田敦子, 多田寿康, 佐々木克実 (神田外語大学非常勤講師)

### 要 旨

本学の外国語教育の中で印欧系言語である英語, フランス語, スペイン語の授業において, 本学の学生に向けた教材開発を視野に入れて, 単語, 成句に続いて, 本稿は会話表現の面からのアプローチを試みた。

国際武道大学はコミュニケーションツールとして会話重視の授業を行っている。本学の英語, フランス語, スペイン語授業において学習させるべき会話表現について, 本学の学生が学べる難易度や量を考慮し, 自然な会話表現を学習できるようにその選択を試みた。

ここに挙げたリストは必ずしも固定的なものではなく, さらに良いものにするべく今後も常に見直しが必要であると考え。

キーワード : 国際武道大学, 英語, フランス語, スペイン語, 語彙, イディオム, 会話表現, 体育, 武道, スポーツ

## Sitting-Shooter Basketball ゲームの確立と普及・展望に関する研究

### — 体育系男子大学生を対象とした事例 —

奥山秀雄 (国際武道大学 体育学部 体育学科), 浅沼 徹 (国際武道大学 体育学部 体育学科),  
藤本太朗 (国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科)

#### 要 旨

Sitting-Shooter Basketball (SSB ゲーム) の確立と普及・展望に向けた基礎的資料を得ることを目的として、体育系男子大学生を対象とした SSB ゲームの実践調査を行った。

特別体験授業の受講生と大学生男子バスケットボール部員が実施した SSB ゲームの実践調査の主な結果を以下に示した。

- 1) 体育系男子大学生を対象とした SSB ゲームと一般のバスケ競技との「得点」における類似性が確認された。
- 2) 体育系男子大学生における SSB ゲームの個人得点は、バスケ部員の値が最も高く、球技経験「あり」, 「なし」との有意差 (いずれも  $p < 0.001$ ) が認められた。しかし、競技者の身長と個人得点との間に有意な相関関係は認められなかった。
- 3) ゴール正面からのシュート成功率は、「バスケ部員」と球技経験「なし」で、右 0 度からのシュート成功率は「バスケ部員」と球技経験「あり」および球技経験「なし」で「バスケ部員」の値が高く、いずれも有意差 ( $p < 0.05$ ,  $p < 0.05$ ,  $p < 0.01$ ) が認められた。
- 4) 体育系男子大学生を対象とした SSB ゲームの調査から、スコアの優劣や競技経験の有無に拘わらず「楽しい」や「ポジティブな感想・意見」が多く確認された。また、SSB ゲームが、学校体育をはじめとした子供のスポーツ機会の充実および障がい者や高齢者のスポーツ実施率の向上に繋がる可能性が十分期待できることを示す感想・意見が確認された。

キーワード：バスケットボール, 5 フィートゴール, Sitting Shoot

## 近代フットボールから派生したスポーツ —各近代フットボールの主要派生競技—

廣瀬恒平, 西園聡史, 酒井 誠

### 要 旨

ほとんどの近代フットボールは、近年それぞれの主流のゲームを大きく発展させている、と同時に、それぞれにおいていくつかの派生競技を生み出している。この度、筆者らは各フットボールの主要派生競技を概括した。

筆者らが主要派生スポーツとして選んだものは、サッカーではフットサルとビーチサッカー、ラグビーユニオンでは7人制及び10人制のラグビー、タグラグビー、タッチラグビー、ラグビーリーグでは、セブンズ、ナインズ、リーグタグ、アメリカンフットボールではアリーナフットボールとフラッグフットボール、オーストラリアンフットボールでは、オースキックとレクフッティ、ゲーリックフットボールではセブンズであった。カナディアンフットボールでは派生スポーツを見出すことは出来なかった。

キーワード：近代フットボール、派生競技、サッカー、ラグビーユニオン、ラグビーリーグ、アメリカンフットボール、オーストラリアンフットボール、ゲーリックフットボール、カナディアンフットボール



## 剣道における諸手左上段に対する中段の技法に関する考察

大矢 稔 (国際武道大学), 金木 悟 (東海大学)

### 要 旨

筆者らは、先に「剣道における諸手左上段の指導法」を著した。諸手左上段（上段）は直線的な体さばきのなかから左腕一本で打ち下ろし、いったん打ち下ろしたら二の太刀、三の太刀が継げないという特徴がある。

このような特徴のある上段に対する中段の技法については、指導書や研究の報告もなく、理論的に整理されていない。

そこで、昭和の戦前期から平成初期の間に、先人が遺した上段に対する中段の技法に関する指導書を可能な限り収集した。その内容は、上段に対する心理や心得、上段に対する戦略、間合、機会、攻め方、攻めと打突の仕方など、記述の範囲と量はさまざまであった。これらの内容を整理・吟味して、指導法の見地から上段に対する中段の技法の基本形を提示した。

キーワード：剣道, 对上段, 中段, 技法, 基本形, 指導法